

# 令和6年度 学校評価報告書

小樽市立銭函小学校  
校長 篠崎 大作

### 【自己評価】

数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価

- A: 100%以上
- B: 80%以上100%未満
- C: 80%未満

### 【学校関係者評価】

学校の自己評価に対し、以下の基準で評価

- ◎: 適切である
- : おおむね適切である
- △: 適切でない

## 1 本年度の重点目標

- 進んでかかわり、ともに鍛える銭函の子の育成
- 【凡事徹底】基礎・基本を大切に、確実に身に付け子ども(知識・技能)
  - 【自己理解】自分を理解し、しっかり考えて伝える子ども(思考力・判断力・表現力)
  - 【連携協働】学びを活かし、仲間とともに高め合う子ども(学びに向かう力・人間性)

## 2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	国語科、算数科の単元テストにおいて、各学年の平均正答率が80%以上の児童の割合を8割以上にする。	C	・国語科の単元テストでは、2学年は82%と数値目標を達成しているものの、他の学年の平均正答率が全校平均で約62%、算数科の単元テストの平均正答率が全校平均で約50%とそれぞれ数値目標の80%を下回っている。	◎
	特別支援教育の充実	年4回校内支援委員会を開催し、特別支援学級及び通常学級に在籍する支援を要する全児童の「個別の指導計画」の短期目標や方策等の見直しを図り、個々の課題改善を図る。	A	4月、6月、10月、2月の年4回の開催し、学期毎に評価をするとともに新たな支援策を検討した。また、保護者からの教育相談や通常学級に在籍する教育支援を要する児童に関わる対応についても臨時の委員会を計4回開催した。	◎
	国際理解教育の充実	全学級で外国人ALTや退職外部人材講師、中学校英語教員を効果的に活用した外国語授業(活動)を実施する。	A	3、4年生は退職人材外部講師による外国語活動を週1回、低・高学年はALTによる外国語授業を3学期に実施した。	◎
	理数教育の充実	児童アンケートで、算数科・理科の勉強が好きと肯定的に回答する児童の割合を8割以上にする。	B	・各教科で実体験を伴う授業とデジタル端末を活用した授業とを単元の内容に応じて使い分けをすることにより児童のわかる、できる、楽しいの実感の向上を図った。 ・算数科及び理科ともに、肯定的に回答する児童の割合が約7割となっており、数値目標を約1割程度下回った。	◎
	情報教育の充実	全学年で情報モラル教室(人権教室含む)を年1回実施し、情報モラルを身に付ける。	A	10月に全学年を対象とした人権擁護委員会による人権教室、8月に6年生、11月に5年生がGIGAスクール支援事業者による情報モラル教室(授業)を実施した。	◎
	キャリア教育の充実	全学年で職場体験や外部専門家等を指導者、講師とする出前授業等を活用したキャリア学習を実施する。	A	低学年では、銭函テラス店舗訪問、中学年では北海道技建による道路塗装体験や一正蒲鉾工場、北海道職業能力開発大学校等の施設訪問、4・5年生では道新記者による出前授業、6年生は能開大によるプログラミング教室や小樽税務署による租税教室等、地域の教育資源や人材を最大限活用した学習を実施した。	◎
改善方策	・国語科の単元テストでは2学年以外の学年、算数科の単元テストについては全ての学年で平均正答率が80%を下回っていたため、3学期に同じテストを繰り返し実施したことにより、国語、算数の単元テストで1、2、4学年で平均正答率が80%以上となり一定程度の成果が見られたことから新年度も計画的に取り組む。 ・算数科・理科の勉強が好きと肯定的に回答する児童の割合を8割以上にするために、単元の内容等により使い分けをした実体験を伴う授業とデジタル端末を活用した授業の妥当性を全校で共有するための年間指導計画を今年度内に作成するとともに、新年度も継続して随時書き等をしていく。				
学校関係者評価委員による意見	・共働き家庭が増加し、学校から帰宅後家庭で一人で過ごす子どもが増えている中、オンラインゲーム等で友達と遊ぶ傾向にある。宿題をする習慣は、まずは家庭からであると考えている。親も一緒に10分でもよいから読書をする、一緒に宿題を見るのが親子の絆を深める重要なことであると考えている。確かな学力を身に付けさせる、算数や理科が好きになるためには、学校だけでなく家庭の協力が不可欠であるため、PTAとしても取組も必要である。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	児童アンケートでの「自分にはよいところがあると思う」という設問に、肯定的に回答する児童の割合を75%以上とする。	A	・全校統一で授業中や係活動、児童会活動等において自己選択、自己決定の場を意図的、計画的に取り入れることにより、「自分にはよいところがあると思う」という設問に、肯定的に回答した児童の割合が83.8%となった。	◎
	ふるさと教育の充実	全学年で地域の教育資源(施設・人材・歴史・自然等)を活用した学習を実施する。	A	9月の全校によるほしみ緑地での自然体験遠足、3年生のおたる水族館及び小樽総合博物館運河館見学、扇玉先生を講師とした2・4年生の潮音頭教室、4年生屋形船体験学習などふるさと教育の充実を図った。	◎
	読書活動の推進	学校図書に加え、デジタル端末を活用したデジタル図書(web)による朝読書活動を継続的に取り組み、「読書が好き」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上とする。	B	図書委員会による読書週間の取り組みとして学校図書館において休み時間の読み聞かせを実施し、さらにデジタル端末を活用した個別最適な音読に取り組み、「読書が好き」と肯定的に回答する児童の割合が69.4%となった。	◎
	体験活動の推進	銭函地区の小樽の自然や資源、人材を生かした学習を全学年、年1回以上行う。	A	9月の全校によるほしみ緑地での自然体験遠足、また、低学年では銭函テラス訪問、中学年では北海道技建による道路塗装体験や一正蒲鉾工場の施設訪問、4・5年生では道新記者による出前授業、6年生は能開大によるプログラミング教室等、銭函地区の教育資源や人材を最大限活用した学習を実施した。	◎
	コミュニケーション能力の育成	児童アンケートにおいて、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上とする。	A	低学年では主にグループ等による対面での話し合い、中学年と高学年では対面での話し合いに加えデジタル端末を活用した意見交流や他者参照をすることにより、「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と肯定的に回答した児童の割合が82.3%となった。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	いじめアンケート等で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合を100%とする。	B	全職員が様々な場面で「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」との意識で指導を行ったことに加え、児童会が中心となっていじめ防止の呼びかけ等の取組を行ったことにより「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合は92%となった。	◎
改善方策	・児童アンケートでの「自分にはよいところがあると思う」という設問に、肯定的に回答する児童の割合が83.8%となった。3学期に85%以上とするために、学習、係活動、児童会活動等様々な場面で子どもに自己選択、自己決定をさせる場面を設定し、子ども自ら取り組む姿勢、努力、成果等に対して担任、教科担任など様々な職員から称賛の声をかけることにより自己肯定感が高まるよう努めた。 ・日常的な道徳教育、児童会によるいじめ防止運動、情報モラル教室等の取組に加え、家庭との連携により「いじめは絶対にダメ!」の意識を高めた。 ・3学期は、全校統一で家庭学習をしない児童をゼロにする取組を実施し、PTAとの連携により、個別最適な音読による読書習慣及び家庭学習習慣の定着を図った。各学年でばらつきはあるものの、全くない児童の割合は一定程度減少していることから新年度も継続して取り組む。				
学校関係者評価委員による意見	・道徳教育、いじめ防止などについても家庭の教育が大切であると考えている。家庭でも子どもに自己決定、自己選択させること。そして失敗をして学ぶことを大人が広い心で見守ることが重要である。保護者同士がもっとつながりをもつことができるようにPTA活動やCS活動に取り組むことが必要である。				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況・達成状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	「体育科の授業は楽しいですか」という設問において、肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。	A	銭函中学校体育専科教諭及び桂岡小学校体育教諭と連携し、運動領域や運動特性に合わせた導入運動や個々の運動能力に合わせた個別指導等を行ったことにより、「体育科の授業は楽しいですか」という設問において、肯定的な回答をした児童の割合が90.9%となった。	◎
		食育の推進	児童アンケートにおいて、「毎日、朝ご飯を食べていますか」という設問に、肯定的に回答する割合を90%以上とする。	A	児童及び保護者に栄養教諭の食育授業や保健だより等で朝食摂取の重要性を継続的に伝えたことで、児童と保護者の朝食摂取に対する意識が高まり、「毎日、朝ご飯を食べていますか」という設問に、肯定的に回答した割合が93.2%となった。	◎
		健康教育の充実	①外部講師による薬物乱用防止教室を第6学年で実施する。 ②養護教諭及び栄養教諭等による授業を各学年1回以上実施する。	A	①11月に小樽警察署による薬物乱用防止教室を実施（まち育てふれあいトークによる4、5年生の健康教室を実施） ②全学年で栄養教諭による食育授業を実施した。	◎
改善方針	・銭函中学校体育専科教諭(6学年)及び桂岡小学校の体育教諭(4・5学年)との連携により、簡易単元構造図を作成し、各単元や1単位時間の目的を明確にし、運動量の確保とデジタル端末の利活用と合わせて、子どもが主体的に学ぶことができるための授業改善を図った。 ・生活習慣スケジュール表を活用し、保護者会等で朝食摂取率を共有し家庭との連携を一つ図り、3学期の朝食を食べる児童の割合を95%以上にするを目標に取り組んだ。保護者アンケートでは「ご家庭でお子さんに朝食を食べるよう促していますか？」の質問に対して肯定的に回答した保護者の割合が100%となっているが、児童が朝食を食べる割合は増加していないため新年度もPTAと連携し継続して取り組む。					
学校関係者評価委員による意見	・朝ごはんのアンケート結果についても、家庭の教育力である。全国的に子ども食堂が増えていることもよいことであり、あまりよくないことである。家庭に1人である子どもに対して学校ではなく、PTAや地域の教育力を発揮して子どもの健やかな体の育成を図らなければならない。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	生活習慣スケジュール表(chromebook版含む)を活用し、保護者会において児童1人1人のデータを年間1回以上共有し、正しい生活習慣の改善を図る。	A	11月及び1月に生活習慣改善強化週間を設定し、生活習慣スケジュール表の結果を保護者会で保護者と共有することで家庭と学校との連携を図った。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	読み聞かせボランティアや小樽市立図書館等と連携し、銭函ミニブックフェスティバルを開催する。	B	・担当教諭が長期休職となり、年度初めに関係機関との連携を図ることができず銭函ミニブックフェスティバルは実施できなかったが、図書ボランティア及び読み聞かせボランティアとの連携により、学校図書館の環境整備に加え11月から3月に1～3学年の読み聞かせを実施した。	◎
改善方針	・年度当初から小樽市立図書館と連携し、小樽市立図書館のブックフェスティバルへの参加を申し込み、もしも対象校とならなかった場合は、文化部が中心となって銭函ミニブックフェスティバルを実施することにより、読書に対する興味関心を一層高める。					
学校関係者評価委員による意見	・健やかな体の育成同様PTAやCSの活動を通じて、保護者間のつながり、地域とのつながり、家庭の教育力を高めることが重要である。					
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	幼・保・中・各種学校と連携した活動を、年1回以上実施する。	A	全ての授業参観日に近隣の幼稚園及び保育園関係者が複数名参観し、授業後の感想や児童の様子を交流。また、11月の公開研究会には近隣小中学校に加え、小樽高等支援学校の教諭も参観及び研究協議に参加するなど、幼・保・中・高等支援学校間の連携を構築した。	◎
		教育環境の整備・充実	ユニバーサルデザインを踏まえた教室環境整備及びデジタル端末等のICT機器の日常的かつ全ての教科の活用に全学級で取り組む。	A	児童の集中力を高めるために黒板側の壁には必要最小限の掲示物とした。また、全学級、全教科で日常的にデジタル端末を活用するとともに、朝読書では新たな試みとして個々の能力等に合わせたデジタル端末を活用したリスニング読書やペーパー読書などの個別最適な音読を実施した。	◎
		教職員の資質・能力の向上	全学年でICTを活用した授業交流を行うとともに、教職員の資質・能力の向上のためのミニ研修会を年間3回以上実施する。	A	研究部及びGJSL(GIGAスクール構想リーダー)を中心とし、4月、5月、6月、11月、12月にfigjam、スプレッドシート、Canvaのホワイトボード等の活用実践研修を計5回実施した。	◎
		学校運営の改善	・校務支援システム(C4th)を活用し、職員会議資料の事前データ共有や出勤管理、休暇等処理簿の一元化を図ることで学校業務のDX化を図る。(勤務時間外の職員会議ゼロ)	A	年度初めも含め、勤務時間外となる職員会議は0回であった。	◎
		学校安全教育の充実	外部講師による交通安全教室、情報モラル教室、防犯教室を実施する。	A	4月の小樽警察署(銭函交番)による1、2年生を対象とした交通安全教室、全学年を対象とした情報モラル教室(人権教室含む)、小樽警察署(銭函交番)による防犯教室を実施した。	◎
改善方針	・全ての授業参観日に近隣の幼稚園及び保育園関係者が複数名参観し、授業後の感想や児童の様子を交流することができたことに加え、近隣小中学校、そして小樽高等支援学校教職員が公開研究会に参加し、研究協議での意見交流が実現できたことは大きな成果である。新年度は、管理職だけでなく本校職員が幼稚園、保育園、各学校へ訪問し、授業参観等(ICTの活用したオンライン参観も含む)ができるよう連携を図る。					
学校関係者評価委員による意見	・銭函地区には星置方面も含め複数の幼稚園、保育園があり、それぞれ園の方針が異なる。異なる園の教育を受けた子ども達が小学校に入学後学校はとても大変であると痛感している。今年度の幼保と連携や小中、小樽高等支援学校との連携をさらに密にして進めてほしいと思う。 ・交通安全教室は保護者も一緒に実施することが望ましい。また、家庭や地域との連携で「いっしょにおすし」運動を活性化させたい。					
社会教育に関連する目標(目標6～8)		市立図書館や博物館を利用した学習を2つの学年以上で実施する。	A	2年生の小樽市立図書館見学、3年生の小樽博物館運河館見学を実施した。	◎	
改善方針	・2年生の小樽市立図書館見学、3年生の小樽博物館運河館見学を実施したが、本校は現地までの移動時間がかかるため、各施設と協議し、スクールバスを活用しての見学に加えオンラインによる学習等も計画していく。					
学校関係者評価委員による意見	・実際に施設で見学することに加えてオンラインでの学習はとてもよいと考える。 ・市のスクールバスは利用に関して制限が多いように感じる。もっと市内小中学生の学びのために利便性を高めてほしい。(台数、利用時間の拡大を要望したい)					